

随 想

公益財団法人 北九州産業学術推進機構
ものづくり革新センター
センター長



野田 松平
Matsuhei Noda

逆光写真と人生

私の趣味は写真であるが、もっぱら静物画、特に花と木を対象としている。

写真を撮るとき、何が最も重要であろうか？もちろん被写体はそれなりに大事である。しかし、私が考える“写真の3要素”とは、一に「光」、二に「背景」、三に「構図」である。

「背景」、「構図」の重要性を知らされた恥ずかしい話がある。30年以上も前の話で、友人夫婦と家族旅行に行き、旅行先の教会を背景に3人の写真を友人と交代で撮った。当時、写真は全てフィルムカメラであり、帰って現像・焼き付けをして、初めて写真の出来栄を確認することができた。現像に出して普通1週間程度かかる。

前述の写真が出来上がった後、友人と写真2枚を見比べた。驚き、呆れ、穴が有ったら入りたい気持ちだった。私の撮った写真は人物だけに気を取られ、上半分が欠けた教会が背景の無残な構図であった。当然友人から罵詈雑言を浴びせられ、情けなさに打ちひしがれた。背景・構図の重要性に気付かされた時であった。

3要素の重要性が良く表れた写真として、英彦山参道の紅葉を撮った写真を図1にご紹介する。

「背景」は真っ黒で紅葉の輝きを引き立てている。本当は背景に薄暗い山林が写っているのであるが、紅葉の明るさと背景の暗さのコントラストを強くして、背景を真っ黒にしている。

次は「光」であるが、この写真は「もみじ」の葉を透過した光を結像させた逆光の写真である。

そのため文字通り被写体の透明感が際立ち、普通の順光で見る紅葉とは全く趣の異なる写真となる。

「構図」の重要さはなかなか説明しにくいだが、ここでは葉の密集度や、右下の空間と紅葉とのバランスなどを考慮した。

以上、3要素の重要性を述べてきたが、その重要性は逆を考えると良く分かる。もし背景が明るかったら、ここで言う紅葉の良さは全く消えてしまう。また曇っていたら、背景とのコントラストがつかず、背景の山林が表れて、紅葉が際立たなくなると共に、ごちゃごちゃの構図となる。

特に逆光の写真では、逆光に照らされて初めて被写体の良さ（真髄）が見えてくる。しかも普段とは全く異なる姿が見え、毎回新しい発見をしているようで、私は逆光の写真が好きだ。



図1 逆光で浮かび上がった紅葉の真髄（美）

人生における自分と社会、組織との関係にも似ているように思われる。自分が曲りなりにも光を放てるのは、所属する社会、組織が背景光として照らしてくれているからと思う。

その感謝の念を忘れないようにすると共に、“部下の良さ”を浮き上がらせる“逆光のような存在”になりたいと願っている。

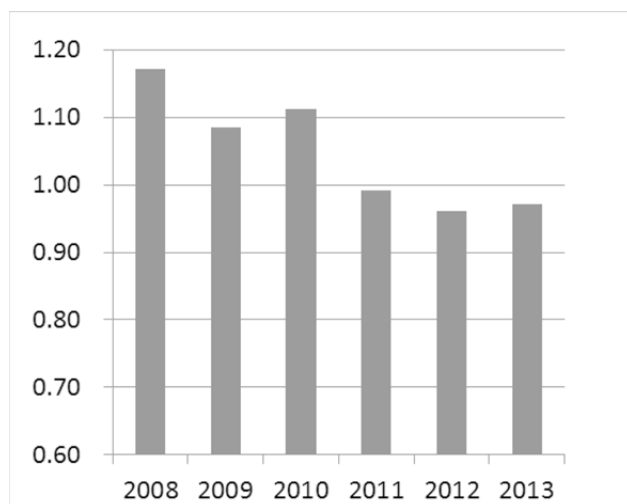
ところで私が所属する“組織”であるが、略称を FAIS（フェイス）といい、北九州市の外郭団体である。市内にある大学の先生方と個々の企業とが連携したコンソーシアムを形成し、国の研究開発公募事業への応募、採択後の運営等を支援することを主な業務の一つとしている。

設立後 15 年が経とうとするが、これまで支援してきた北九州市の製造業全体を、生産性という観点から最近 5 年間の概観してみよう。

“ものづくりの町”として謳ってきた北九州市、その製造業全体の労働生産性は、表 1 に示すように、2008 年には全国製造業の生産性を 2 割程上回り、面目躍如たるものがあつた。しかしその後は一時期を除き下降を続け、2011 年には全国平均を下回り、その後も更に下降幅を拡大している。

その原因調査を兼ねて、今や製造業の基盤技術であり、生産性革新ツールとなってきた 3D 技術（CAD/CAM/ CAE 等）の導入率を調査したところ、市内企業は全国平均から大きく遅れていることが分かった。生産性低下の原因の一つのように思われる。この事実は“ものづくりの町”を謳う北九州市としては忌々しき問題ではなからうか。

表 1 北九州市内製造業の労働生産性比較
(対全国平均比)



出展：工業統計から執筆者が編集

私は FAIS に入溝してから 10 年になるが、2 年程前から最近の製造業環境の急速な変化を感じ、北九州市あるいは FAIS による企業支援の在り方を変えるべきではないかと強く考え始めた。

これまでの支援は、個々の先生あるいは企業の自主性を最大限尊重してきた制度のように思われる。その中で(株)フジコーは、その支援制度をうまく活用し、独自の新技术を新事業にまで育て上げられた尊敬に値する企業であるが、そのような会社は決して多くはない。残念ながら、これまでの FAIS の支援効果は面的広がり（波及）には繋がらず、前述の通り北九州全体の製造業の生産性は概略下降を続けて来た。従って今後は北九州全体の生産性を革新するような面的支援の比重を増やすべきではないかと考えている。

このような背景から、市の政策として“産業ロボット導入支援センター”が 2 年前に設立された。また今年 4 月には私の構想も反映され、“ものづくり革新センター”が設立され、生産性革新に向け、産業ロボットや 3D 技術導入・活用支援を始めている。

今後は、現在急速に進展している IoT (Internet of Things) に対応できるよう、3D 技術導入・活用をベースに、例えば製品バリューチェーン毎の“中小デジタル連携”といったネットワークの立上げ・強化を図る必要があるように思われる。それらのデジタル連携をベースに、その中で得られるビッグデータ収集・分析も反映させた北九州デジタル生産性革新（北九州 IoT）に繋がればと考えている。まだ個人的レベルであるが、それらの考えを纏めた“ビッグデータ&3D 技術活用による北九州ものづくり革新・実証構想”を案画中である。

最後に、FAIS が“北九州製造業ルネッサンス”活動で、各々の中小企業の本当の良さ（真髄）を浮かび上がらせる“逆光的存在”になることができたらと願っている。